

国際NGO セーブ・ザ・チルドレンがレポートを発表**貧困は10年間で400万の子どもの命をうばった**

社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

子どもたちのための国際NGO 社団セーブ・ザ・チルドレンは、9月20日からニューヨークでミレニアム開発目標国連首脳会合（MDGs サミット）が開催されるにあたり、国家および世界レベルでの乳幼児死亡率削減に向けた取り組みにおいて「公平性」を提言するレポート「A Fair Chance at Life～命への公平な機会～」*を発表しました。

2015年までに、乳幼児死亡率を1990年のレベルの3分の1に削減するという目標(MDG4)は、達成期限がわずか5年後に迫った現在、削減すべき3分の2のうち、いまだ28%しか達成できておらず、最も進捗が遅れている目標の一つです。しかも、多くの国で最富裕層と最貧困層の死亡率の格差が広がっているという事実は覆い隠されたままです。

本レポートは、開発途上国が全ての所得層において、最も死亡率削減速度の早い富裕層と同じ速度で死亡率削減を実現できていれば、この10年間のうちに42カ国で400万人の子どもの命を救うことができたはずだと指摘しています。最貧困層への取り組みを重視しなかった国々において、予防可能な要因による子どもたちの死亡を阻止する取り組みに劇的な遅れが生じたことが明らかにされています。



栄養不良の子どものためのセンターで数日前に治療を受けた2歳のラヒーナと母親ハディジャ/ ニジェール

こうした格差を防ぐためにも、世界の首脳が今後5年間に向けて世界の最も貧しい、弱い立場に置かれた子どもたちに対し公平性を重視した革新的なアプローチをとり、基礎医療ケアをはじめとする基本的な社会サービスへの普遍的アクセスが確実にもたらされる具体的な計画に合意することが必要です。セーブ・ザ・チルドレンは、MDGs サミットがこの計画合意への決定的な機会となることを期待しています。

* A Fair Chance at Life～命への公平な機会～(英文46P)のPDFをご用意しております。
ご希望の方は下記までご連絡ください。(メール送信の方にはデータを別途添付しております)

■セーブ・ザ・チルドレンとは：1919年に設立した子ども支援NGO。現在、世界で29のそれぞれ独立した組織がパートナーを組み、世界最大のネットワークで120カ国以上で活動を展開しています。90年にわたる活動は、世界のNGOの代表格として各国政府からもその重要性を認められています。

レポートは、32 カ国における乳幼児死亡率のデータの分析結果を発表し、国と国の間、また、一国内には著しい格差が見られ、貧しい子どもは裕福な子どもよりも死亡の確立が高い上に、多くの国においてその格差は拡大していることを報告しています。乳幼児死亡率を公平に改善できている国はわずか7カ国です。

国家の経済成長が、そのまま子どもたちの健康を保障するものではありません。近年の平均経済成長率が8%のインドでは、最貧困層の子どもが亡くなる確立は最富裕層の子どもの3倍にも上りますが、乳幼児死亡率ではMDG4の達成に必要な削減の40%しか達成できていません。反対に、経済成長率が低くてもMDG4達成に向けて成果を上げている国もあります。経済停滞、飢餓と慢性的な栄養不良、自然災害、内部紛争と政情不安に覆われるニジェールが公平な改善を達成している国の一つであるというのは驚くべきことです。現在、ニジェールは食糧危機に陥っており、700万人が食糧不足に苦しんでいます。しかしながら、1998年から2006年の間にニジェールでは5歳未満児乳幼児死亡率が28%削減されるという目覚ましい改善を見せるとともに、不公平も大幅に改善されました。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでは、株式会社ブーム・メディア・コミュニケーションズ（東京都渋谷区恵比寿 代表取締役 榎島伸一 <http://www.boommedia.co.jp>）様のご協力により、9月16日より順次全国約600店のカフェにキャンペーンの無料ポストカードを30,000部設置し、MDGs4達成に寄与するグローバルキャンペーン「EVERY ONE」の訴求を展開します。



イラストテーマ:子どもは未来の種、子どもたちの花を咲かせよう!